

世界の絶景

# お城&宮殿

The World Beautiful Castles & Palaces





# Contents

09	アルハンブラ / スペイン	066
10	ラ・グランハ宮殿 / スペイン	070
11	ベナ宮殿 / ポルトガル	071
12	ブラハ城 / チェコ	072
13	ブダ城 / ハンガリー	074
14	エカテリーナ宮殿 / ロシア	076
15	冬宮殿 / ロシア	078
16	トプカプ宮殿 / トルコ	080
17	ドルマバフチェ宮殿 / トルコ	081
18	アグラ城 / インド	082
19	ハワ・マハル / インド	083
20	アンベール城 / インド	084
21	マイソール宮殿 / インド	086
22	タイ王宮 / タイ	088
23	紫禁城 / 中国	090
24	ポタラ宮 / 中国	094

## 4 戦闘城塞 Battle Castles 096

01	ウォーリック城 / イギリス	098
02	カーナーヴォン城 / イギリス	099
03	ロンドン塔 / イギリス	100
04	エディンバラ城 / イギリス	102
05	ホーエンザルツブルク城 / オーストリア	104
06	サンタンジェロ城 / イタリア	106
07	コカ城 / スペイン	107
08	マルボルク城 / ポーランド	108
09	トームベア城 / エストニア	110
10	姫路城 / 日本	111

## 5 城塞都市 Walled Cities 112

01	ルクセンブルク / ルクセンブルク	114
02	カルカソンヌ / フランス	116
03	サンマリノ / サンマリノ	120
04	アビラ / スペイン	122
05	コルドバ / スペイン	123
06	セゴビア / スペイン	124
07	トレド / スペイン	126
08	パレッタ / マルタ	128
09	ドゥプロヴニク / クロアチア	130
10	ロドス / ギリシャ	132
11	チェスキー・クルムロフ / チェコ	133

### Column 2 城塞都市と城塞の歴史～城塞の誕生から終焉まで～ 134

## 6 廃城 Ruined Castles 136

01	キルカーン城 / イギリス	138
02	ダノター城 / イギリス	139
03	ハイデルベルク城 / ドイツ	140
04	スピシユスキー城 / スロバキア	141
05	クラック・デ・シュヴァリエ / シリア	142
06	竹田城 / 日本	143

## World Map 004

## 1 メルヘンなお城 Fairy tale Castles 006

01	アイリーン・ドナン城 / イギリス	008
02	リーズ城 / イギリス	010
03	ア・ハール城 / オランダ	012
04	シヨン城 / スイス	013
05	ノイシュヴァンシュタイン城 / ドイツ	014
06	ホーエンシュヴァンガウ城 / ドイツ	018
07	コッヘム・ライヒスブルク城 / ドイツ	019
08	ホーエンツォレルン城 / ドイツ	020
09	リヒテンシュタイン城 / ドイツ	022
10	モーリッツブルク城 / ドイツ	024
11	スワローズ・ネスト / ウクライナ	025
12	トラカイ島城 / リトアニア	026
13	ベレシュ城 / ルーマニア	027
14	ブラン城 / ルーマニア	028
15	デル・モンテ城 / イタリア	030

## 2 ロワール渓谷の古城 Châteaux of The Loire 032

01	アゼ・ル・リドー城 / フランス	034
02	アンジェ城 / フランス	035
03	アンボワーズ城 / フランス	036
04	ヴァイランドリー城 / フランス	037
05	シャンボール城 / フランス	038
06	シュヴェルニー城 / フランス	042
07	シュノンソー城 / フランス	044
08	シュリー・シュル・ロワール城 / フランス	046
09	ショーモン城 / フランス	047
10	プロワ城 / フランス	048
11	ユッセ城 / フランス	049

### Column 1 お城のように美しい建物 050

## 3 巨大宮殿 Grand Palaces 052

01	クロンボー城 / デンマーク	054
02	フレデリクスボー城 / デンマーク	055
03	シェーンブルン宮殿 / オーストリア	056
04	サンスーシ宮殿 / ドイツ	058
05	フォンテーヌブロー宮殿 / フランス	059
06	ヴェルサイユ宮殿 / フランス	060
07	カゼルタ宮殿 / イタリア	064
08	ヴェネツィアのドゥカーレ宮殿 / イタリア	065

湖と山に囲まれた幻想的な美しさ  
 デューイッヒ湖のほとりにひっそりと建つアイリーン・ドナン城。その名はゲール語で「ドナンの島」を意味し、かつてこの地で暮らしていた修道士ドナンに由来するといわれる。  
 満潮時にはまるで湖面に浮かんでいるように見え、陸へとつながる石橋や背景の壮大な山々が織り成す幻想的な景観と相まって、「スコットランドで最も美しい城」と称されている。  
 城が建てられたのは、十三世紀。当時、この地域で勢力を誇っていたノルウェー王国の軍を、スコットランド王アレクサンダー三世が撃破した際に、功績を挙げた者への恩賞としてこの城を与えたという。  
 その後、城はジャコバイト(名譽革命の反革命勢力)の残党の掃討をもくろむイギリス政府軍の艦隊に攻撃され、一七一九年に陥落し廃墟と化す。  
 城がかつての姿を取り戻したのは、一九三三年のこと。城にゆかりのあるマックレー家の子孫によって一九一一年に買い取られ、残されていた平面図を基に、約二〇年という歳月をかけて元の姿に修復された。



# Eilean Donnan Castle

アイリーン・ドナン城

イギリス



【左】夕焼けに照らされオレンジ色に染まるアイリーン・ドナン城。【右/上】城全景。内部は、城主のマックレー家に関する歴史的な史料や当時の家具調度類などが展示される博物館になっている。【右/下】背後にそびえる山からは、スコットランドで最も美しいといわれる城と周囲の景観を一望することができる。なお、周辺は交通の便が悪いので、レンタカーかツアーの利用がおすすめだ。

### Recommend

■ハイランドの自然に触れる：ハイランド地方は、名前のおりの高地。フィヨルドやイギリス最高峰のベン・ネビス山(1344m)、点在する湖など、荒涼とした大地が広がる景観はSF映画さながら。トレッキングツアーなどもあるので、参加してみてもいい。

■アーカート城：アイリーン・ドナン城から車で東へ1時間ほどのネス湖畔に、荒れ果てた古城、アーカート城がある。13世紀に築城され、スコットランド独立戦争の舞台となった歴史ある城で、現在もなお、怪物伝説で知られるネス湖とともに、幻想的な雰囲気を漂わせている。

### Data

アイリーン・ドナン城

■アクセス：インヴァネス駅からカイル・オブ・ロハルシュ駅まで列車で約2時間半、駅から車で20～30分。グラスゴー、エディンバラなどからバスツアーもある。

■ベストシーズン：6月～8月

■開館時間：(1月は休館)  
 ・2～12月 → 10:00～18:00  
 (6月は9:30～、7・8月は9:00～)

## ハイランドの入り江にたたずむ スコットランド随一の美城

アイリーン・ドナン城は、スコットランド北西部のデューイッヒ湖(入り江)に浮かぶ島に建つ小さな城。最初の城は13世紀に建てられたが、18世紀にイギリス政府軍に破壊された。現在の建物は、20世紀に入って再建されたもの。

【上】アイリーン・ドナン城へは、陸と湖上の島とを結ぶ石橋を利用して向かうことができる。【下】夕景に映えるライトアップされたアイリーン・ドナン城。静かな湖面に映り込む姿はえも言われぬ美しさで、思わずため息が漏れてしまうほど。

「世界で最も愛らしい城」と称されるリーズ城は、八五七年にノルマン人の豪族によって建てられた。一二七八年にエドワード一世夫妻の宮殿になって以降、三〇〇年間にわたってイギリス王室の王宮として使用され、増改築を繰り返しながら現在の姿へと至った。中世には、生涯で六度結婚したこと  
 で有名なヘンリー八世の最初の妻、キャサリン・オブ・アラゴンをはじめ、六人のイングランド王妃が暮らしたことから、リーズ城はやがて「貴婦人の城」と呼ばれるようになる。また、ヘンリー五世の後キャサリン・オブ・ヴァロワなどフランス王家出身の三人の后たちにより、城内にはフランス風の洗練された装飾が施されていった。現在は、当時の寝室や木製の風呂、王妃の歩廊、礼拝堂などが残されている。湖上に浮かぶ城の外観は優雅そのもので、広大な庭園、併設された鳥舎のほかにも、敷地内にはさまざまな施設が点在しており、巨大迷路、ゴルフコース、鷹狩りショー、気球での遊覧など、アトラクションも盛り沢山。

洗練された室内装飾、  
鳥たちが遊ぶ庭園



# Leeds Castle

リーズ城

イギリス



【左/上】敷地内にある名物の生け垣で造られた巨大迷路(メイズ)。迷ったときには係員がアドバイスしてくれるのでご心配なく。  
 【下/左】シンメトリーに構成されたリーズ城の正門。【下/右】中世に使用されていた「女王の浴室」。天蓋(てんがい)からつるされた白布は、使用者の位が高いことを示している。【右】朝焼けに包まれるリーズ城。

### Recommend

■中世の港町「ライ」：リーズ城の南、車で約1時間の場所にある港町ライ。南東イングランドで最も美しい町と称され、旧市街には中世の面影を色濃く残した街並みが残る。特にアンティーク・ショップが充実していて、ヴィクトリア朝時代のレース細工や銀食器など、品ぞろえも豊富。

■カンタベリー大聖堂：リーズ城の東、車で約40分に位置する町カンタベリー。中心にはイギリス国教会の総本山カンタベリー大聖堂がそびえる。世界遺産にも登録されているゴシック建築の傑作で、数々の歴史の舞台となった。




### Data



■アクセス：ロンドン・ヴィクトリア駅からベアステッド駅まで列車で約1時間、駅からシャトルバスで約10分。  
 ■ベストシーズン：7月～8月  
 ■開館時間：  
 ・4～9月 → 10:30～18:00  
 ・10～3月 → 10:30～17:00

## 「貴婦人の城」と称される ロマンチックな湖上の城

イングランド南東部、ケント州の都市メードストーンにあるリーズ城は、6人の王妃が住まいしたことから「貴婦人の城」として知られる。手入れの行き届いた庭園と黒鳥をはじめとする鳥のコレクションも見どころのひとつ。

【上】庭園内で放し飼いにされているクジャク。このほかにも黒鳥や白鳥、カモなど、数多くの鳥たちが自由に歩き回ったり羽を休めたりしている。【下】静かな湖と緑に囲まれたリーズ城。気品の漂うその姿は、まさに貴婦人の風情そのもの。



## Château de Chillon

### シヨン城



レマン湖のほとりに建つ  
ロマンチックな古城

スイス南西部のレマン湖畔のリゾート、モントルー近郊に所在する城。湖に突き出た岩盤の上に築かれた中世の古城で、湖に浮かんでいるような姿がロマンチック。

**Data**

■アクセス：モントルー駅からシヨン停留所までバスで約20分、バス停から徒歩約3分。または、モントルーから徒歩約30分。

■ベストシーズン：4月～9月

■開館時間：  
・4～9月 → 9:00～19:00  
・3月、10月 → 9:30～18:00  
・11～2月 → 10:00～17:00

### Recommend

■ラヴォー地区：ローザンヌからシヨン城まで湖に沿って続く丘陵にブドウ畑が広がる、美しい風景で有名な地区。各村々では1000年以上ワイン造りが受け継がれており、その歴史と伝統が評価され2007年に世界遺産に登録された。



詩人バイロンの代表作「シヨンの囚人」の舞台  
アルプスの峰々に囲まれ、スイスとフランスにまたがる三日月形の美しい湖、レマン湖。古くから保養地として知られるこの湖のほとりに建つシヨン城は、その起源を中世初期までさかのぼる歴史ある古城だ。  
城が建つ場所に人が住み着いたのは青銅器時代のこと。九世紀には、イタリアからアルプスを越えてくる商人たちに通関税や物品税を課すための関所が設けられた。その後、十一世紀に最

初の城壁が建造されてシヨン大司教の城となり、十二世紀にサヴォイア伯國が領有してから大規模な拡張が行なわれ、十三～十四世紀に最盛期を迎えた。城の名を一躍有名にしたのは、一八一六年にこの城を訪れたイギリスの詩人、ジョージ・ゴードン・バイロン。彼の代表作である「シヨンの囚人」は、十六世紀にサヴォイア公に捕らえられ、この城の地下牢に幽閉されたジュネーブの宗教改革者、フランソワーズ・ボニヴァルをうたったものだ。地下牢の柱には、バイロンが書いたとされる「BYRON」の落書きが残されている。

まるで湖に浮かんでいるかのようなシヨン城。レマン湖のクルーズ船に乗って、船上から城を眺めるのもまた一興だ。



## Kasteel de Haar

### デ・ハール城



国内でも屈指の名勝、  
オランダ最大の城

オランダ中部の古都ユトレヒトの郊外にあるネオ・ゴシック様式の城で、オランダ最大の規模を誇る。17世紀以降は長く廃墟となっていたが、19世紀末に再建された。

**Data**

■アクセス：ユトレヒト・セントラル駅からフレウテン駅まで列車で約10分、駅から「カステール前」までバスで約20分、バス停から徒歩約15分。

■ベストシーズン：5月～10月

■開館時間：  
・1月6日～12月19日 → 11:00～17:00

### Recommend

■バラ園：デ・ハール城の周囲にはフランス風、ローマ風などの庭園があり、なかでもバラ園(写真)はお薦め。城内の見学はガイドツアーでのみ可能で予約が必要。待ち時間は庭園を散策しカフェで一休みしてみてもいい。



現代に再現された  
中世の薫りあふれる豪壮な城  
豊かな水をたたえた濠が周囲を取り巻き、跳ね橋や見張り櫓を備えた堂々たる城門をもつデ・ハール城。城内に広がる森を抜けると、やがて威風堂々としたれんが造りの城館が、目の前に姿を現す。まるで中世にタイムスリップしたかのような趣だが、現在の建物は十九世紀末に再建されたものである。もともとの城は十三世紀に建てられたが、度重なる戦争によって十七世紀には大部分が廃墟と化してしまう。そ

の後、約二世紀にわたって放置されていたデ・ハール城が再び注目されたのは、一八九〇年のこと。当時の城主エチエンヌ・ファン・ザウレン男爵が、妻の実家であるロスチャイルド家の後を継いで、二〇年の歳月をかけて大修復作業を行なったのだ。  
設計を任せられたのは、十九世紀オランダを代表する建築家ピエール・カイパー。彼は原形を尊重しつつ最先端のデザインや技術を採用し、ネオ・ゴシック様式の城へと変ぼうさせた。大きな庭園には、七〇〇本の木がユトレヒト全域から移植されたという。

オランダで最も大きく、最も美しいと称されるデ・ハール城。城の裏手にはフランス式の幾何学模様の庭園が広がっている。

## 世界の絶景 お城&宮殿

2014年9月30日 第1刷発行

企画・編集	教養実用出版事業室	発行人	脇谷典利
編集	EDing Corporation	編集人	土屋俊介
編集スタッフ	谷伸子・小島優貴・武井誠	編集長	渡部義之
デザイン	谷伸子	発行所	株式会社 学研パブリッシング 〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8
写真	Shutterstock	発売元	株式会社 学研マーケティング 〒141-8415 東京都品川区西五反田2-11-8
		印刷所	凸版印刷株式会社

【この本に関するお問い合わせ先】

【電話の場合】

- 編集内容については 03-6431-1511 (編集部直通)
- 在庫、不良品(落丁、乱丁)については 03-6431-1250 (販売部直通)

【文書の場合】

〒141-8418 東京都品川区西五反田2-11-8 学研お客様センター『世界の絶景 お城&宮殿』係

- この本以外の学研商品に関するお問い合わせは 03-6431-1002 (学研お客様センター)

© Gakken Publishing 2014 Printed in Japan

本書の内容、写真などの無断転載、複製、複写(コピー)、翻訳を禁じます。  
本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用であっても、著作権法上、認められておりません。複写をご希望の場合は下記までご連絡ください。

日本複製権センター <http://www.jrrc.or.jp/>  
E-mail : [jrrc\\_info@jrrc.or.jp](mailto:jrrc_info@jrrc.or.jp) Tel.03-3401-2382  
☒ <日本複製権センター委託出版物>

- 学研の書籍・雑誌についての新刊情報・詳細情報は下記をご覧ください。  
学研出版サイト <http://hon.gakken.jp/>